

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Memorandum on noun phrases which can be used in the topic of contemporary Japanese

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-03-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福田, 嘉一郎, Fukuda, Yoshiichiro メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1522">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1522</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 現代日本語の主題に現れうる名詞句についての覚書

福田嘉一郎

## 1. 名詞句の対象指示の方式

名詞句が対象を指示する方式には、「特定」と「非特定」、「定」と「不定」という、2種の対立がある。

「特定 (Specific)」とは、名詞句が指示しうる対象のうちの、どれが指示されているかが決まっていることを言う。指示対象が決まっていなければ、名詞句は「非特定 (Non-Specific)」となる。

「定 (Definite)」とは、名詞句が指示する対象を、聞き手が同定できると考えられることを言う。指示対象を聞き手が同定できない、または同定できるか否か不明と考えられるなら、名詞句は「不定 (Indefinite)」となる。

「非特定」の名詞句は、指示対象が決まっていないため、聞き手が対象を同定することはありえず、常に「不定」となる。「特定」の名詞句は、「定」になる場合と「不定」になる場合とがある。「定」の名詞句は常に「特定」である。

- (1)a. [車] [特定-定] をどけてくれ。
- b. そういえば [車] [特定-不定] が止まっていた。
- c. ガードレールが曲がっている。[車] [非特定-不定] がぶつかったんだらう。
- d. [車] [非特定-不定] がないとそこには行けない。

以上の関係をまとめると、(表1)のようになる。

(表1) 名詞句の対象指示の方式

特定	定
	不定
非特定	

## 2. 主題「……は」に現れうる名詞句

### 2.1 不定名詞句と主題

一般に、「は」によって主題 (Topic) の基として取り立てられる語句の中に、「不定」の名詞句は現れえないとされる<sup>1</sup>。

1 寺村 (1991): pp.45-48, 62-65。

- (2) \*[[どれ]] はあなたの机ですか？  
 (3) \*[[どちら]] は欲しいですか？  
 (4) \*留守のうちに，[[誰か]] は来ましたか？  
 (5) \*[[何か]] は焼けている。  
 (6) \*あなたの大学では，[[どこの国からの留学生]] は多いですか？  
 (7)a. \*今朝，あの国道の所で，[[トラック]] はうさぎをはねたんだって。  
       b. \*今朝，あの国道の所で，[[うさぎ]] はトラックにはねられたんだって。  
       c. \*今朝，あの国道の所で，[[うさぎ]] はトラックがはねたんだって。  
 (8) [中国の水仙に関する伝説の紹介] \*話によると，約200年前，[[福建省のある地方で，年がら年中，勤勉に働いていたある小作農]] は，ある日の早朝，道具を担いで仕事に出かけた。

しかしながら，(9)，(10)における「[[郵便局]]」「[[タクシー]]」は「非特定」であり，「不定」としか解釈できないにもかかわらず，(9)，(10)は適格である<sup>2</sup>。

- (9) この辺に [[郵便局]] はありますか？  
 (10) 旅先で [[タクシー]] に] は乗りましたか？

## 2.2 主題に現れえない名詞句の特徴

(8)の名詞句「[[福建省の……ある小作農]]」は，「不定」ではあるが「特定」である。「ある(或)」という形式は，それが用いられた名詞句の指示対象が，話者にとっては決まっているが聞き手には同定できないと考えられるということを示すもので，名詞句は常に「特定-不定」となる。

一方，(2)-(7)の名詞句「[[どれ]]」「[[どちら]]」「[[誰か]]」「[[何か]]」「[[どこの国からの留学生]]」「[[トラック]]」「[[うさぎ]]」は，いずれも「非特定」である。これらの指示対象が決まらないのは，指示対象についての情報が話者にとって不足しているためである。

(2)-(6)の名詞句には，話者にとっての情報の不足ということを示す語彙的意味として有する語が含まれている。(2)，(3)，(6)における「どれ」「どちら」「どこ」は，不足する情報を話者が聞き手から得る目的で用いる語である。

(7a-c)では，概言のモダリティ（話者が命題事態を事実と認めない述べ方）の形式である「って」が用いられている。これは，命題事態を事実と認めるに足る（直接観察して得た）情報を話者がもっていないことを示している。その

2 丹羽 (2006): pp.163-181。

結果、名詞句「[トラック]」「[うさぎ]」は「非特定」となっている<sup>3</sup>。

### 2.3 名詞句の対象指示の方式と主題への出現

(2)-(7)の名詞句は、仮に十分な情報があれば指示対象を決められるが、実際はそれができないという指示の方式である。それに対して、(9)、(10)の名詞句は、同じく「非特定」ではあるが、対象は名詞句「[郵便局]」「[タクシー]」が指示しうるもののうちのどれでもよいという指示の方式である。

いま、「非特定」のうち、名詞句の指示対象についての情報が話者にとって不足しているために指示対象が決まらない場合を「未知 (Unknown)」と呼び、話者が名詞句の指示対象を決めない場合を「任意 (Arbitrary)」と呼ぶことにする。すると、名詞句の対象指示の方式と、名詞句が主題「……は」に現れうるか否かとの関係は、(表2)のようになる。

(表2) 名詞句の対象指示の方式と主題「…[(名詞句)]…」は

名詞句		主題	「…[(名詞句)]…」は
特定		定	OK
非特定	未知	不定	NG
	任意		OK

(1c)の「[車]」は「未知」の例、(1d)の「[車]」は「任意」の例である。その形式、表現が用いられると、名詞句の対象指示の方式を明示するものがある(N: 名詞)。

- (11) 定: 「このN」「そのN」「あのN」「例のN」…  
 特定-不定: 「或るN」「1つのN」「いくつかのN」<sup>4</sup>…  
 未知: 「なに」「なにか」「なんらかのN」「どこかのN」…  
 任意: 「なんでもいい、なにか」「1つでも」「なにも」…

### 3. 名詞句の種類

普通名詞 (Common Noun) を主要部とする名詞句 (普通名詞句) が、指示しうる対象のすべてを指示する場合、「総称 (Generic)」の用法となる。「総称」

3 確言 (話者が命題事態を事実と認める述べ方) の文においては、名詞句「[トラック]」「[うさぎ]」はともに「特定-不定」となる。

(7)a'. 今朝、あの国道の所で、[トラック] が [うさぎ] をはねたんだ。

b'. 今朝、あの国道の所で、[うさぎ] が [トラック] にはねられたんだ。

4 「或るNは」「1つのNは」「いくつかのNは」の「は」は、主題ではなく対照を表す。

の普通名詞句は、文脈と関わりなく「定」として扱われる。

(12) [[車] [総称(一定)]] は便利だ。

(13) [[映画] [総称(一定)]] はよく観るんですか？

普通名詞句が、指示しうる対象の一部を指示する場合、「非総称 (Non-Generic)」の用法となる。「非総称」の普通名詞句が「定」「特定-不定」「未知」「任意」のどれになるかは、文脈によって決まる (→(1), (11))。

固有名詞 (Proper Noun: 「聖徳太子」「東京スカイツリー」「日本」「米国」「言語学」…) は、それを主要部とする名詞句 (固有名詞句) が常に「総称 (一定)」となる名詞である。また、代名詞 (Pronoun: 「私」「あなた」「彼」「これ」「それ」「あれ」…) は、それを主要部とする名詞句 (代名詞句) が常に「非総称-特定-一定」となる名詞である<sup>5</sup>。

以上の関係をまとめると、(表3)のようになる。

(表3) 名詞句の対象指示の方式と名詞句の種類

非総称		総称		定	普通名詞句	固有名詞句
		特定				代名詞句
非特定	未知		不定			
	任意					

「総称」であるはずの名詞句の指示対象を、聞き手が確実に同定できると考えられない場合、日本語では、「[[総称名詞句]] という (普通名詞)]]」という表現を用いて、全体を「特定-不定」の普通名詞句として扱う。総称名詞句は、普通名詞の指示対象が持つ呼称ととらえられている。

(14)a. [[アフガンハウンド] という犬] [特定-不定] を知っていますか？  
 ≡アフガンハウンドという名の犬を知っていますか？

b. ?アフガンハウンドを知っていますか？

(15)a. [[太郎] という男] [特定-不定] が訪ねて来たよ。  
 ≡太郎 {という名の/と名のる} 男が訪ねて来たよ。

b. 太郎が訪ねて来たよ [「太郎」は話者と聞き手に共通の知人]

また、「定」の名詞句の指示対象について、聞き手は同定はできるであろうが、十分には知らないであろうと考えられる場合も、「[[定名詞句]] という (普通名詞)]]」という表現が用いられる。この場合は、表現全体も「定」の普通名詞句となる。

5 常に「定」である固有名詞句、代名詞句において、「不定」を明示する形式を用いることはできない (\*[{或る/どこかの} {富士山/彼女}])。

- (16) [[[アフガンハウンド] という犬] [総称]] は、かなり飼うのが難しい。
- (17) [[[太郎] という男] [総称]] はとんでもないやつだよ。
- (18) [[[君] という男] [非総称一定]] はとんでもないやつだな (自分ではそうは思っていないのだから)

#### 参考文献

- 金水敏 (1986) 「名詞の指示について」 築島裕・築島裕博士還暦記念会 編『築島裕博士還暦記念 国語学論集』 pp.467-490. 明治書院.
- Kuroda, S.-Y. (1972) The categorical and thethetic judgment: evidence from Japanese syntax. *Foundations of Language* 9: pp.153-185. Dordrecht: D. Reidel Publishing Company.
- Lyons, Christopher (1999) *Definiteness*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 西山佑司 (2003) 『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句』 ひつじ書房.
- 丹羽哲也 (2006) 『日本語の題目文』 和泉書院.
- 野田尚史 (1996) 『「は」と「が」』 くろしお出版.
- 寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味 III』 くろしお出版.